

作成日 2018年11月1日

改訂日 2022年11月1日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名)	MT-BERON57 酸性
会社名	株式会社エコクリーン
住所	三重県松阪市久保町 1587-1
担当部門	環境事業部
電話番号	0598-20-2677
緊急時の電話番号	0598-20-2677
FAX 番号	0598-60-1557
推奨用途及び使用上の制限	鋼構造物用塗膜剥離剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分4
	急性毒性 (経皮)	区分5
	急性毒性 (吸入:蒸気)	区分3
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (中枢神経系、腎臓) 区分3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1 (中枢神経系)
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性 (急性)	分類できない
	水生環境有害性 (長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有害の恐れ
吸入すると中毒
重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷
臓器の障害（中枢神経系、腎臓）
眠気およびめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
他の容器に移し替えないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
取扱い後は手、顔等をよく洗うこと。

【応急措置】

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合、汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で15分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
下記の場合は、直ちに医師の診断を受けること。

（眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合）

【保管】

容器を密閉して、直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて、涼しい所/換気の良い所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を破棄する場合は、該当法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。
使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分	含有量（重量%）	CAS No.	化審法 No.	安衛法
ベンジルアルコール	38.6	100-51-6	3-1011	該当
アルコール系化合物	5～15	非公開	非公開	非該当
高沸点溶剤	10～20	非公開	非公開	非該当
有機酸	5～15	非公開	非公開	非該当
粘度調整剤	1～10	非公開	非公開	非該当
水	10～20	7732-18-5	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を直ちに新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、速やかに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに全ての汚染された衣服や靴を脱ぐ。 接触部を多量の流水又はシャワーで洗い流す。 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当を受ける。 汚染された衣服を再利用する場合には、十分に洗濯し汚染を除去する。
眼に入った場合	直ちに清浄な流水で15分間以上洗眼する（容易に取り外せる場合はコンタクトレンズも外す）。 眼の刺激が持続する場合は眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 直ちに医療措置を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入	咳、めまい、頭痛
皮膚	発赤
眼	発赤
経口摂取	腹痛、下痢、し眠、吐き気、嘔吐
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋等の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水、水噴霧
特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出時の処理を行う場合には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

液や飛沫等の服や皮膚への付着やミストの吸入を避ける。

漏出した場所の周辺にロープを張る等して、関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合は、吸着材（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等で拭き取る。

多量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機等で耐腐食性の空容器に回収する。

回収・中和

少量の場合は、吸着剤で吸着させて密閉できる容器に回収する。

多量の場合には、土砂等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気・全体換気等)

取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

アルカリ性の製品との接触を避ける。

ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

皮膚と接触しないこと。

眼に入れないこと。

接触回避

『10.安定性及び反応性』を参照

衛生対策

保護手袋及び保護眼鏡/保護面を着用すること。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、通風の良いところに密閉した場所で保管すること。

盗難防止のために施錠保管すること。

子供の手の届かないところに保管すること。

アルカリ性物質と一緒に保管しない。

安全な容器包装材料

ポリエチレン製の密閉容器、ケミドラム、ステンレス製密閉容器

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
管理濃度	設定されていない
許容濃度	日本産衛学会 設定されていない ACGIH 設定されていない
保護具	
呼吸用保護具	適切な保護具を着用する。
手の保護具	不浸透性の防護手袋を着用する。
眼の保護具	安全眼鏡（ゴーグル型安全眼鏡又は防災面）を着用すること。 ソフトレンズは刺激物を吸収し、それらを濃縮する可能性があるため着用しない。
皮膚及び身体の保護具	防護服、安全靴または安全ゴム長靴を着用する。
特別な注意事項	特になし

9. 物理的及び化学的性質

外観	淡灰色粘稠液体
臭い	微芳香臭
pH	2～3
沸点	100℃以上
引火点	なし
比重(密度)	1.04 (20℃)
溶解度	水には溶け難いがアルコール、エーテルに溶ける。

10. 安定性及び反応性

反応性	自己反応性なし
化学的安定性	通常の取扱条件では安定である。 長期の保管は避ける。
危険有害反応可能性	アルカリ性物質と反応する。 ある種のプラスチックを侵す。
避けるべき条件	燃焼
混触危険物質	強アルカリ
危険有害な分解生成物	焼すると一酸化炭素を含む有毒ガスを発生する。

11. 有害性情報（製品についてのデータが不十分であるため情報なしとした）

急性毒性(経口)	情報なし
急性毒性(経皮)	情報なし
急性毒性(吸入)	情報なし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	情報なし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性、(単回ばく露)	情報なし
特性標的臓器毒性、(反復ばく露)	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし

1 2. 環境影響情報（製品についてのデータが不十分であるため情報なしとした）

水生環境有害性(急性)	情報なし
水生環境有害性(長期間)	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装

空容器は、内容物を完全に除去してから都道府県知事の許可を受けた廃棄処理業者に委託して処理する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号(UN No)	1760
国連分類(class)	クラス 8 (腐食性物質)
容器等級	III

国内規制

陸上輸送	消防法、労働法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	

漏出時の措置：『6. 漏出時の措置』を参照。

『7. 取り扱い及び保管上の注意』を参照。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れがないことを確認する。

転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれ防止を
確実に行う。

該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

応急措置指針番号

154

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)

第一種指定化学物質：非該当

第二種指定化学物質：非該当

労働安全衛生法

特化側：非該当

有機側：非該当

表示通知義務対象物質（第 57 条）：該当 ベンジルアルコール

危険物（引火性のもの）：非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

消防法(危険物)

非該当

16. その他の情報

記載内容の取扱い

すべての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるか
しれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更
が生じます。重要な決定等に利用される場合は、出典等をよく検討され
るか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、
物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、
一般的な取扱いを対象としていますので、特殊な取扱いの場合には、こ
の点にご配慮をお願いいたします。

引用文献等

- 1) SDS と GHS がわかる本：GHS 国連文書・JIS 対応、(社) 化学物質評価
研究機構 (2014)
- 2) GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック 混合物用 (塗料用) 第 3 版、
(社) 日本塗料工業会 (2016)
- 3) ラベル・SDS の読み方・活かし方 改正労働安全衛生法対応、中央労働
災害防止協会 (2016)
- 4) よくわかる SDS、ラベル作成実務入門—GHS、JIS Z 7253 対応、化学工
業日報社 (2013)
- 5) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) データ
- 6) [改訂第 4 版] 緊急応急処置指針 容器イエローカード (ラベル方式) へ
の適用、(社) 日本規格協会 (2014)
- 7) 英和対訳 危険物輸送に関する勧告 第 I 巻 モデル規則 第 15 改訂版
化学工業日報社 (2009)
- 8) 英和対訳 危険物輸送に関する勧告 第 II 巻 モデル規則 第 15 改訂版
化学工業日報社 (2009)